

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

吉川市教育委員会

3つの資質能力
を育む

子供が主役の授業改善

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、主体的で対話的で深い学びの実現を目指して、「子供が主役の授業改善」に取り組んでいます。

事例1

児童の「主体性」を引き出す取組

○教科名：小学校「算数」

○単元名：第4学年「計算のきまり」

○本時の目標：ドットの数の求め方を、図や式に表したり、図や式を使って自分の考えを説明したりすることができる〈思考力、判断力、表現力等〉

○取組の工夫：導入で児童に困り感を味わわせることで児童自身が必要感をもつことができた。「もっと簡単な式にしたい」という考えを児童から引き出し、本時の課題を設定したことで児童の意欲が高まった。児童に選択させる場面を多く設けることで主体的に自力解決する姿が見られた。

導入



既習事項の確認



困りを共有⇒必要感

共通のゴールを
児童と共有

課題 どうすれば、よりかんたんな1つの式にできるだろうか

展開



自分で



先生や友だちと



自分の考えを伝え合う



ノート・ワークシート
から選択

○学習方法の選択

・自分 ・先生や友達

○学習形態の選択

・ノート ・ワークシート

まとめ



児童の言葉でまとめる

事例2

問いを立て学び続ける生徒の育成を目指した取組

○教科名：中学校「理科」

○単元名：第1学年「音の性質」

○本時の目標：音の現象について適切な言葉を用いながら表現することができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

○取組の工夫：身近な物体や発音体、音さや糸電話の実習などを導入で扱うことで生徒から疑問を引き出し、生徒自ら学習課題を設定できるようにした。また、「音による現象はどのように説明できるか」を単元のゴールにし、学習した知識を生かして説明をする活動を行った。生徒は、自分の問いを持ち、協働しながら最後まで意欲をもって学習に臨む姿が見られた。



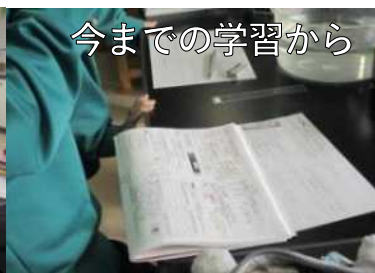
疑問



必要感



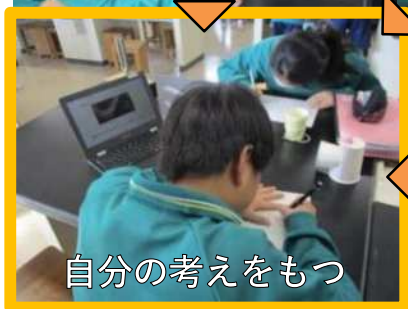
試しながら



今までの学習から



協働し、まとめていく



自分の考えをもつ



ICT を活用して

事例3

生成 AI を活用した個別最適な学びと

協働的な学びの一体的な充実

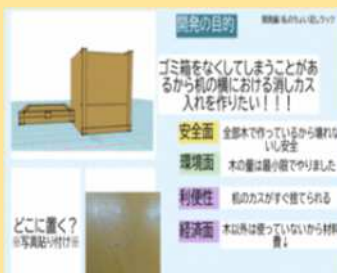
○教科名：中学校「技術」

○単元名：第1学年「あると便利な〇〇なちょい足しラックの商品開発をし、PR しあおう」

○本時の目標：プロンプトを入力し、より適した情報を取捨選択し、活用できる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

○取組の工夫：材料と加工の技術で作成したラックの製品名について、自分の思いを振り返り、AI とグループの友達からの意見も参考に自己決定する。



開発の目的（自分の
思いを振り返る）



生成 AI



グループ



製品名を決める